

## 事業報告

事発番号 : 学19-050

事業名 : 令和元年度京臨技病理細胞検査精度管理報告会  
ならびに病理細胞検査講演会

日時 : 令和2年2月9日 (日) 13:00~17:00

場所 : 京都府立医科大学 基礎医学学舎1階 第1講義室

主題1 病理検査精度管理報告と解説

講師1 : 竹腰 友博 技師 (京都市立病院)

主題2 細胞診検査精度管理報告と解説

講師2 : 山口 直則 技師 (綾部市立病院)

主題3 ホルマリン固定組織で作製するLBC標本のすすめ

講師3 : 谷村 満知子 技師 (滋賀医科大学附属病院)

主題4 結核菌と抗酸菌検査の話

講師4 : 山田 幸司 技師 (京都府立医科大学附属病院)

参加数 : 総数25人 (京臨技会員 : 23人)

報告者 : 久保 喜則 (京都第一赤十字病院)

以下、講演内容など

前半は精度管理結果報告と解説を行いました。病理検査は、チール・ネルゼン染色を実施しました。3 $\mu$ mで薄切した未染色スライドを配布し各施設で染色された標本を回収し、判定は研究班員と参加希望施設代表者で行い施設名を伏せて評価しました。18施設中13施設がA評価、5施設がB評価と良好な結果でした。ほとんどの施設で抗酸菌の染色性に大きな差はありませんでしたが、背景の共染やコントラストの弱さにが評価を落とす原因となっていました。細胞検査分野では、日常的業務にて遭遇する可能性の高い症例や特徴的な細胞所見を有する症例15例と知識の確認・向上を目的とした症例を教育的症例(評価対象外)として2問を採用し計17例を出題、提示写真から回答するフォトサーベイを実施しました。正答率の基準を70%とし、良悪の判定と組織型の推定が出来る事を目的としました。参加施設は21施設で、1問が正解率47.6%で評価基準を下回ったため評価対象外とし、平均正解率が94.2%、施設別正答率は78.5%、評価対象設問の全体正解率は94.2%で良好な結果と考えます。京都府における状況を把握することができました。

後半の病理細胞検査講演会では、ホルマリン固定組織片からLBC標本を手軽に作製する方法を考案された谷村先生に、作製方法と細胞像の見方から応用についてご講演いただき、山田先生には染色サーベイに関連した、結核菌と抗酸菌検査の基礎から最新の情報についてご講演いただきました。

今後も京都府下の施設における染色技術の習熟と向上に努めていきたいと思えます。大変多くの知識を得ることができた有意義な報告会ならびに講演会でした。